

二つのPBL—Problem Based Learning と Project Based Learning

Problem Based Learning (問題解決学習) と Project Based Learning (プロジェクト学習) は、ともにアクティブ・ラーニングの一種であり、略称も同じ「PBL」であることから、混同されることもしばしばあります。京都大学の溝上慎一教授は、ご著書の中で両者を以下のように整理しておられます。

Problem Based Learning (問題解決学習)

実世界で直面する問題やシナリオの解決を通して、基礎と実世界とを繋ぐ知識の習得、問題解決に関する能力や態度等を身につける学習のこと。

Project Based Learning (プロジェクト学習)

実世界に関する解決すべき複雑な問題や問い、仮説を、プロジェクトとして解決・検証していく学習のことである。学生の自己主導型の学習デザイン、教師のファシリテーションと、問題や問い、仮説などの立て方、問題解決に関する思考力や協働学習等の能力や態度を身につける。

(『アクティブ・ラーニングとしてのPBLと探究的な学習』東信堂、2016年、p.21)

これを「問題の性質と学びの一サイクルに要する時間・期間」という角度から見れば、前者が「比較的小さく具体的な形で問題が提示され、比較的短時間の取り組みで学びの一サイクルが完結する」授業になるのに対して、後者は「より大きく漠然とした形で提示された問題を、自分たちで具体的なプロジェクトに落とし込んだ上で、ある程度長時間・長期間にわたって取り組むことを通じて学ぶ」授業になるのが一般的です。「プロジェクト学習の中に、学びの一ユニットとして問題解決学習を組み込む」という授業も見られます。